

デジタルで"道徳"

第3回 「ふせんツール」の活用



千葉県富津市立
富津小学校
礒部 光泰 先生

光文書院『デジタル教材 道徳（デジ徳）』（以下『デジ徳』）に搭載されている実践ツールの1つ、「ふせんツール」を使った授業実践事例を紹介します。

内容項目 善悪の判断、自律、自由と責任 **教材名** おかあさんとの やくそく（光文書院2年）

「ふせんツール」とは…



自分や登場人物の思いや考えを、デジタル版の「ふせん」を使って表現できるツールで、1回の授業で3枚まで、授業展開に合わせて使用することができます。ふせんは赤・青・黄・緑の4色あり、板書する際に使用するチョークの主な色とも同じなのもポイントで、低学年から高学年まで幅広く活用できます。ふせんは、文字を入力することで保存できます。今回の授業実践では、選んだふせんに、出席番号を入力しました。

1 対話的な学びに導くツール

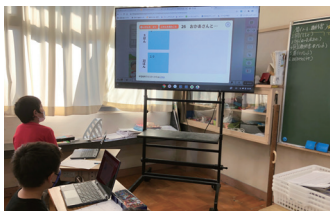
『おかあさんとの やくそく』は、遊ぶ約束をした時間に来ない友だちに対して、主人公の「てつやさん」がどのようなメッセージを送るべきか考える教材です。相手の気持ちを考えた上で、よりよいメッセージはどのようなものかを、みんなで話し合う際に、「ふせんツール」を活用しました。



◀「ふせんツール」を使う子ども

1枚目のふせんは、「てつやさん」が送ろうとしたメッセージに対して、どう思うかを話し合うために導入の場面で使用しました。「みんな、このメッセージはどう思う？」と問い、よいと思う場合は「赤」、よくないと思う場合は「青」のふせんを選ぶことにしました。

（中・高学年では、実際に考えを打ち込んで伝えることができますし、低学年でもふせんの色を使って、自分の考えを十分に伝えることができます。）



◀「ふせんツール」を使って、メッセージに対する印象を表現できる

この場面では上の画像のように、青いふせんが並び、ほとんどの子どもがこれは「よくない」と考えました。お互いの色を確認すると、「そうだね！ だって友だちのことを考えていないよ」と対話が自然と生まれました。

そこで、本文の『おかあさんとの やくそく』から、相手が「悲しくならない・自分がもらってうれしい」、よりよいメッセージはどのようなものかをさまざまな角度から話し合いました。

「どんなメッセージなら、自分だったらうれしい？」と問うと、「遅くなってもいいよ！」の遅れ心配タイプ、

「いつ来られる？」の時間確認タイプ、「どうしたの？大丈夫？」などの友だち心配タイプ、「来ることを楽しみにしているよ！」などの安心うれしいタイプと、4つのタイプに分類することができました。

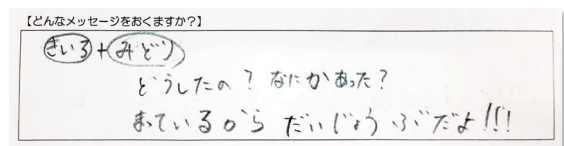


◀対話する子どもたち

2 考えが広がるツール

4つのタイプそれぞれを、赤・青・黄・緑に色分けし、「自分だったらどの色を送る？」と問いかけ、2枚目のふせんを4色から選ばせました。そして、選んだ色をもとに、自分の言葉でメッセージを隣の子に伝えてみました。さらには、自分が選ばなかった色でもメッセージを伝えてみました。（タイピングができる場合は、ここで実際に打ち込んだものを見せてもよいと思います。）そして、最終的に自分が一番「よい」と思ったタイプを3枚目のふせんを使って、選びました。

選んでいると「先生、1つに選べないかも」「2つ選んでもいい？」などの相談がありましたので、「どんな組み合わせがいい？」と発問しました。子どもたちからは「時間の確認は大事だけど、一言安心できる言葉があるとうれしいな」との声が聞こえてきました。



▲ふせんの色を組み合わせ子どもが考えたメッセージの例

「ふせんツール」を使って分類することで、子どもたちの考えを整理することができます。

さらには、友だちのふせんと自分のふせんを組み合わせることで、よりよい考えがどんどん広がっていくことを子どもたちは実感しました。